

1年1組 国語科学習指導案

場 所 1年1組教室
授業者 國枝 雅恵

1 単元・教材名 こえにだしてよもう 「くじらぐも」

2 指導の立場

(1) 教材観

児童と同じ1年生が登場する作品である。一人一人の名前や行動は描かれておらず、学級としてまとまって、くじらぐもと対応している。自分たちの授業の様子と重ね合わせ、現実の世界から空想の世界へ、そしてまた現実へと行き来しながら、場面を想像して読みやすい作品となっている。

また、会話文にかぎっこを使うことを初めて学習する単元である。これまでの教材でもかぎっこはあったが、本教材でこのかぎっこは誰の発言なのかを意識することで、役割読みをする楽しさを味わうことができる。また、「みんなが」「くじらぐも」などの助詞を意識することで、動きの順番もつかむことができる。これらの学習を通して、会話文を含むくじらぐもと子どもたちのやりとりを、音読劇にして行うことを通して、動きや思いをイメージしながら、場面の様子をより豊かに想像することができると思う。

音読劇は、これまでに「おおきなかぶ」で取り組んできている。その学習を生かして、想像を膨らませながら、仲間と音読劇をすることで、物語を読む楽しさを存分に味わわせたい。

(2) 児童の実態

元気よく音読することができる児童は多い。これまで、「うたにあわせてあいうえお」では、はっきりした口形で発音することを意識して音読した。また、「あさのおひさま」では、「のっこり」や「ざぶんと」などの言葉から、様子を想像して工夫して音読する学習を行った。「おむすびころりん」では、「ころころころりん」や「すつとんとん」などの言葉をリズムカルに読むことで、物語のおもしろさが伝わるという学習を行い、仲間と一緒に音読する楽しさを味わってきた。1学期最後の「おおきなかぶ」では、おじいさんや孫などの役割に分かれて、文章には表れていない「おじいさんがおばあさん呼びに行くときの言葉」や、かぶが抜けたときの喜びの表現などを考えて、工夫した音読劇を行った。こうした学習を通して、読み取ったことを音読で表すことのよさを感じることができた。

ひらがなは、ほとんどの児童が読むことができる。また、句読点を意識して読むことも、7割ほどの児童ができています。しかし、擬音や普段使い慣れていない言葉（「しょうてんがい(商店街)」や「ねっこ」など）については、一文字ずつ拾い読みになってしまう児童もいる。

本単元では、物語の楽しさをより感じるできるよう、繰り返しの音読によって自信をつけ、動作やつけ足しの台詞などを大切に音読劇によって、物語の世界に浸らせたい。

(3) 指導観

【研究内容1】に関わって

第三次の言語活動として「2年生に音読劇を発表する」ことを位置付け、言語意識を次のように設定する。

相手意識・・・・・・・・・・2年生に

目的意識・・・・・・・・「くじらぐも」の物語の楽しさを伝えるために

場面・状況意識・・・・・・・・2年生を招待して、劇の様子を見てもらい

方法意識・・・・・・・・仲間と音読劇を行う

評価意識・・・・・・・・「くじらぐも」の物語の楽しさが伝わる音読劇ができる

音読劇では、仲間と声を合わせて読む「天までとどけ、一、二、三」の工夫や、くじらぐもの上に乗った子どもたちの台詞を考えることなどを通して、物語の世界のおもしろさを伝える工夫を考えていく。

【研究内容2】に関わって

一人読みの段階において、子どもたちの台詞を、ワークシートの吹き出しで表し、字の大きさや強さを変えながら書くことで、だんだん大きな声になっている様子などが気づけるような工夫を行う。また、上部にくじらぐもの会話文を書くことで、子どもたちとの位置関係もつかみやすいようにする。書くことよりも、表現することで思いを表せる児童が多いので、記入は視写のみとし、読み取ったことや、考えたことをどんどん演技に取り入れながら、読みを深めていけるようにする。

【研究内容3】に関わって

交流前段において、グループでの交流を行った後、全体に広げる形をとる。交流の中で、特に工夫が見られたグループを指名することで、どうしてそう動いたのか、なぜそのような台詞を考えたのか、どうしてそのような話し方をしたのか発表させ、演技の中に物語の世界観をとらえていることに気付かせていく。

交流後段において、深めの発問として、「みんなの声は、だんだん変わっていったけど、くじらぐもの『もったかくもったかく』の声は、変わったかな。」と投げかけることで、「子どもたちの頑張る姿に合わせて、みんなのことが好きなくじらぐもも、なんとか自分のところに来てほしいという思いで、だんだん声が大きく強くなっていった。」ことに気付かせたい。その結果、風の力を借りて、子どもたちがくじらぐものもとにやってきたのだというおもしろさに気づかせたい。

3 単元の目標

場面の様子を想像し、登場人物の様子や行動が表れるように、読むことができる。 【読(1)ウ】

言葉のまとまりや響きを楽しみながら、声に出して読むことができる。 【読(1)ア】

・かぎ(「 」)の使い方を理解することができる。 【伝国(1)イ(オ)】

4 単元指導計画（全8時間計画）

過程	時	主な学習活動（課題・着目する語句・深めの発問）	単元を貫く 課題/言語活動	評価規準【観点】
一 次	1	「くじらぐも」が、どんなお話が予想しよう。 ・題名や挿絵を手がかりにして、どんな内容を予想し、「くじらぐも」の範読を聞き、学習の見通しをもつ。	場面の様子を想像し、くじらぐもの楽しさがわかるように、音読劇をしよう。	「くじらぐも」や作者に関心をもち、想像を広げながら、物語を楽しんで読もうとしている。 【関・意・態】
	2	好きなところを見つけよう。 ・お話の内容を場面ごとに確認しながら、いろいろな読み方で音読し、「いいな」「好きだな」と思ったところを伝え合う。		場面の様子や登場人物の行動について、好きなところを見つけて書いている。 【読(1)エ】
二 次	3	子どもたちとくじらぐもが、なにをしているかを 読み取って音読劇をつくろう。 ・「みんなが」「くじらぐもも」などの助詞に着目して、くじらぐもが、子どもたちの動きをまねしている様子を読み取る。 着目：「みんなが」「せんせいが」「くじらぐもも」 深め：どうして、くじらぐもは、みんなの動きを真似していたのでしょうか。		助詞や同じ動きなどに着目して、子どもたちとくじらぐもの様子を読み取って、音読劇にしている。 【読(1)ウ】
	4 本 時	ジャンプする子どもたちや、くじらぐもの様子を考 えて、音読劇をつくろう。 ・「子どもたち」と「くじらぐも」の様子がよく分かるように、動作化を通して声の大きさや速さを工夫する。 ・会話文に着目して、繰り返し出てくる台詞は、同じように話しているのか考える。 着目：「天までとどけ、一、二、三。」 「もっとたかく。もっとたかく。」 深め：くじらぐもの応援する声は、1回目と2回目と同じでしょうか。		「天までとどけ、一、二、三。」や「もっとたかく。もっとたかく。」の会話文に着目することで、力を合わせてくじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちや、それを応援するくじらぐもの様子の変化に気付き、共に活動したいという両者の思いを読み取って音読劇をしている。 【読(1)ウ】
	5	くじらぐもに乗って、話した言葉を考えよう。 ・くじらぐもに乗ったつもりで、雲の上での会話を想像して吹き出しに書く。 着目：「げんきいっぱい」「みんなは、うたをうたいました。」 「どこまでも どこまでも」 深め：繰り返しがあるとないのとでは、どう違うのでしょうか。		「くじらぐも」に乗って空の旅をする様子を想像し、自分が考えた会話を付け加えて音読劇をしている。 【読(1)ウ】
	6	「 」の書き方や、使い方をしろう。 ・かぎ（「 」）を使って視写したり、自分が考えた言葉を書いたりする。		会話はかぎ（「 」）を使って書くことを知り、句読点やかぎを正しく用いて書いている。 【伝国(1)イ(オ)】
三 次	7	好きなところを選んで、音読劇の練習をしよう。 ・好きな場面を選び、役を決めて音読の練習をする。		場面の様子や登場人物について、好きなところを見つけながら読んでいます。 人物や場面の様子がよく分かるように、想像を膨らませながら、工夫して音読劇をしている。 【読(1)ウ・エ】
	8	2年生に音読劇を発表しよう。 ・音読の発表をし、感想を交流する。		人物や場面の様子がよく分かるように、想像を膨らませながら、工夫して音読劇をしている。 【読(1)ア・ウ】

5 本時のねらい

「天までとどけ，一，二，三。」や「もっとたかく。もっとたかく。」の会話文に着目することで，力を合わせてくじらぐもとび乗ろうとする子どもたちや，それを応援するくじらぐもの様子の変化に気づき，共に活動したいという両者の思いを読み取って音読劇をすることができる。【読(1)ウ】

6 本時の展開(4/8)

* 人権教育の観点

	学 習 活 動	指導・支援 見届けの視点
導 入	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よしてきた，くものくじらにとびのろう。」で，みんなでくじらぐものところへ行くことをきめたよ。 <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ジャンプする子どもたちや，くじらぐもの様子を考えて，音読劇をつくらう。</p> </div>	<p>前時の掲示物で，状況を確認する。</p> <p>実態の見届け 登場人物の関わりを正しくとらえているか。</p> <p>登場人物になりきって音読劇をしている児童を価値付ける。言葉に着目して，誰がどのような動きをしていたのかを押さえる。</p>
個人追究 / 交流前段	<p>3 三場面を，グループで音読劇にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで手をつないで，丸い輪になると」と書いてあるから，子どもは，みんなで手をつなごう。 ・「天までとどけ，一，二，三。」と言って，ジャンプするよ。 ・3回跳びました。 ・3回目は，30センチくらい，2回目は50センチくらいで，3回目にいきなり風が吹いて，くじらぐものところまで吹き飛ばしました。どうやったら，飛んでいる感じになるかな。 <p>4 子どもたちの言葉「天までとどけ，一，二，三。」を3回視写しながら，音読の仕方を考えて，交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんだん字が大きくなるように書きました。1回目より2回目，2回目より3回目の方が，だんだん力が入って，声が大きくなると思うからです。 ・字が，だんだん上の方になるように書きました。だんだん空のくじらぐものに近づいていると思うからです。 ・字にどンドン力が入るように書きました。今度こそという思いで，力を込めて言っていると思うからです。 	<p>跳んだ回数や跳んだ高さなどを読み取り，繰り返し挑戦していることやだんだん高くなっていることに気づかせる。</p> <p>なかなか考えられない児童には，共に部分音読することにより，読み方の違いを一緒に考える。</p> <p>「天までとどけ，一，二，三。」を3回音読することで，子どもたちのくじらぐものもとへ行きたいという気持ちを確かなものにする。</p>
交流後段	<p>5 深めの発問を提示して読みを深める(広げる)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>くじらぐもの「もっとたかく，もっとたかく。」と応援する声は，2回とも同じだったでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもも子どもたちに会いたいから，応援する声もだんだん大きくなっていると思います。 ・子どもたちの声が大きく力強くなっているから，くじらぐもの声も同じように大きくなっていると思う。 	<p>視写だけでは表現できない思いを，机間巡視の中で個別に聞き取り，発表に生かす。</p> <p>* 言葉や場面の様子を手がかりに，子どもたちやくじらぐもの気持ちを豊かに想像する力を育てる。(自己啓発力)</p> <p>定着状況の見届け くじらぐもは，どんな思いで子どもたちを見ていたのかを考えられたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもの言葉を，視写させる。
ま と め る	<p>6 本時の学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>くじらぐもに会いにいきいたいという子どもたちの思いと，ここまで来てほしいというくじらぐもの思いは同じだと分かりました。だから，どちらもだんだん声が大きくなっていくように工夫して，音読劇をしたいです。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの役，くじらぐもの役になって，読み取ったことが表れるように，グループで音読劇をする。 	<p>【評価規準】 「天までとどけ，一，二，三。」や「もっとたかく。もっとたかく。」の会話文に着目することで，力を合わせてくじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちや，それを応援するくじらぐもの様子の変化に気づき，共に活動したいという両者の思いを読み取って音読劇をしている。 【読(1)ウ】</p>